

高齢者大学文芸部 3月歌会

冬日射し納屋に届きて暖かし籠の馬鈴薯白き芽を吹く 山下 菊代
春風に庭の水仙白くゆれ梅のつぼみも脹らみて来ぬ 北村ツギ子
緋りつつ蔓のばしゆく豌豆に春の息吹の緑いや増す 岩木タエ子
早春の櫟林は明るみてしきりじやれるる二匹の仔犬 佐々木佐江子
言ふべきか否やを幾日迷ひつつ揺るる今宵の灯明を消す 梅野カヲル
われの身もいづればこの地を去りゆくか生の証と短歌を詠み継ぐ 氏岡 百枝
爽やかな歌友の朗詠身に沁みて共に学べる喜びの湧く 小池ミエ子
昨日とはまるで変れる暖かさ下校の子らか声弾ますは 山田 弘子
合志川の流れは真昼の陽に照りて向ひの山に鶯の声 中川 愛子
南天の実もいつしかに鳥の餌か日々を庭草遅しく伸ぶ 川口 敦子



せせらぎ俳句会 2月例会

暖冬異変悲喜交々の便りかな 寺本 和子
白寿孕寿全寿の姉妹春炬燵 坂本まつえ
柳川の川面が映す吊し雛 藤本アツ子
カーテンにひそみし春蚊ふつと消え 五丁 義昭
脱ぎ置きし野良着飛ばして春の風 藤本 邦治
日脚伸ぶ晩酌少し待つとせう 内村 泊虹
曾孫からパレンタインよとチョコボール 服部 静子
夕暮れのおとづれ遅くなって来た (中一) 渡辺大寿
近づくと枝にぼつぼつ緑の芽 (中二) 渡辺一史

肥後狂句水笑会 2月例会

名人級隠し芸では無ア手品 水 光
老人ツアーきやア乗つとらす他所んバス 好 茶
名人級舌で当てらす隠し味 五 女
口ばかり二期目はとても無理でしょう 三 水
くたびれたばってん生きて欲しかった 美 由
老人ツアートイレ停車の多過ぎる 三 代
口ばかり後の席で聞こえよる 乗 仏
名人級何処で修業さしたるか 江 彩

万句の里俳句会 2月句会

梅真白句碑のあたりに影ゆれて 梅田 昭子
外の景窺ふごとく露の臺 北村 妙子
初音して山いきいきとしてきたる 平山 邦子
下萌や心はずでに旅の空 宮本 雅子
ふと覚めし窓にしんしん月冴ゆる 林 まつ子
春立ちて流れる水の弾みをり 富田 幸子
東風強し稲荷神社の旗が鳴る 茨木 幸子
梅が香の人通るたび動きけり 松永 久子
山路来て五感あふるる程の春 中路 郁子
出来立ての春風浴びて歩しにけり 高木 陽子
初蝶の少し飛んでは草に入り 鋤本 トミ
臥竜梅見事に頭起ちあがる 田中ひさ子

肥後狂句桜会 例会入選句集より

失敬な奴先輩に挨拶もせん 小川 繁美
こまめさが家計支えてくれる妻 狩野 本六
嬬天下子供までご亭馬鹿にする 高倉 新米
卒業して母も行商せんで済む 太田 雄三
本日限りちよつと被災地戻らるる 田中 孝幸
嬬天下二次会の味知らっさん 須藤 新生
卒業してみんな出て行く過疎の村 窪田 明德
嬬天下なんでも許可のいるごたる 藤野 清子

七城短歌会 2月詠草

口ばかり肝腎なとき居らっさん 英 坊
抱え持つ花に止まりし白蝶と共にバスの乗客となる 村上 幾雄
二年連続受賞の駅伝ファミリア賞寄り添う子孫の笑顔溢るる 緒方 寛子
季を知る隣家の臘梅花開く老木なれど香り忘れぬ 水田紗陽子
推敲に詰まる折りふし類似なるヒント掴むと歌集「耕土」読みつぐ 佐々 重弘
一夜の雪かかず木戸のしだれ紅梅無難の蕾かたく春待つ 高木 精
戸に立てば朝かとまどう雪降りて野も山も真白く静かなり 池田 禮子
紅濃ゆきままに落ちたるやぶ椿ひとつ拾いて山路のぼる 松岡ミチエ
待ち侘びて初抱きの曾孫健やかに育つを祈る至福がしみる 池田カツ子
「あの綿んよな雲ん上に寝てみたーい」とふ子等が野道ではしゃぐ傍過ぐ 斎藤 芳子

泗水短歌会 2月詠草

雪はらい役場に用件ありと告げ行きしは確かに別れの言葉 中山 定子
霜柱今も立つかと息子問う都心に住みて三十五年 平嶋きくえ
紅白の梅が見ごろと机の亡夫の遺影の向きを替へてやりたり 福原美智子
雛壇にさす陽の温しかたはらの夫の遺影の顔もほころぶ 増田久美子
度々に訪ね行きたる娘の仕地寿ぎの今日菜の花のみち 吉安 永子
しら梅は咲き満ち蜂ら集い鳴く常仰ぎるし主いまなし 内田つね代
疲れたるかすむ目に見る鬱の文字ルーペで二度も 大島 さと
三度も確かむ 朝明けの窓に射し来る陽の光まどろみながら春の音聞く 宮本 峯子
高嶺の花と仰ぎし友が吾の前に杖を携え柔和に立てり 高藤タツノ

旭志文芸俳句会 2月詠草

友膳に春を食べたり露のとう 出田みどり
初山河住めば都と老いにけり 芹川 蓉子
正月も暖かい日は草むしる 郷 ミヤ子
夢にまで母の櫛とぶ師走かな 水谷 ミネ
霧のなか竹刀のひびき寒げいこ 芹川のり子
元朝の搾乳牛の部屋温し 中山 栄子
豊饒と恩師百歳迎えらる 東 芳子
眉あげて踏み出す一歩霜の朝 中尾ヨシコ

おわびと訂正

3月1日号に一部誤りがありました。おわびして訂正します。
「万区の里俳句会」の10句目の氏名
(○) 隈部輝子
(×) 服部輝子